



オモロい言葉



シェア活



2017年12月版

peopleperson

まえがき

昔から妄想癖があり、自作の仮定のストーリー内で人と会話をする（独り言を言いながら）のが常でした。

最近は、人はどんなことに心動かされ、面白さを感じるのか？どんな方向に考えを巡らせているのか？そのアイデアを、どんなふうに表示するのか？に興味を持ち、現在、仕事の傍らイベントをいろいろ開催しています。その中の一つの“オモロい言葉探しシェア活”は、皆でシェアして楽しむのも良しですが、そのじわじわ来る面白さは、一人遊びにも最適です。イベント内での口頭でのシェアとの違いはありますが、書いたものを読むものなかなかの面白さがあります。

以前、“この、リンス泥棒！変な寝言が忘れられない”という本に出逢って衝撃を受けたことを思い出し、こういう形にして世に出したい！と思い、思い切って行動に移してみました。

この人の脳みその中で、こんな動きがあるんだな～、とニヤリとしていただけますと幸いです。

☆オモロい言葉探しルール☆

とにかく自分が面白い！！と思う言葉を集めます。造語でも良い。英語でも良いが、日本人になじみのある単語の方がベター。単語だけでなく、ことわざや表現、フレーズなどもOK。人が不快に思うような言葉でなければ何でも良い。（この本の言葉コレクションは、2017年7月現在の話題です）

人にとって面白いかどうかは関係なく、自分が面白いと感じていることが基準。どんなふうに感じるとか、その言葉の背景が面白いとか、シェアする感想は何でもOK。単純な笑いだけでなく、知的な内容など、いろんな方向からの面白さを対象とします。

☆73 (数字)

→73は21番目に小さな素数で、73をひっくり返した37は12番目に小さな素数。さらに $7 \times 3 = 21$ である。学校で、算数や数学の本当の面白さを教えてもらえないのが残念だ、という話にもなりました。

☆バームクーヘン

→元自衛隊勤務の方から。起床後、ベッドの上の毛布をきれいに巻いてから外に出て点呼に参加することになっていた。毛布の形状がその名の由来。上官が物差し持参で見回りに来て、きれいに90度に巻かれていないと毛布や荷物を窓から放り出されるという厳しさだった。

☆ボンバーガール (造語)

→職場にいる若く元気な女の子で、何でも「私がやります！」と張り切ってたくさん仕事を引き受けるが、その後結局最後までやり遂げられず、周りが尻拭いで疲弊するという状況になっている。爆弾を溜め込んで爆発させるその子を、ボンバーガールと名付けた。

☆ウグイス嬢

→きれいな女性の声を特徴としてその存在を表す言葉となっているあたり、非常に日本的と感じる。女性をモノ扱いするな、というグローバル化の流れによって消えていくのではと思う。絶滅危惧語では？F1レースのグリッドガールも廃止になりつつある、世界的な流れだねえという話になりました。

☆「ないと言えないじゃないですか」

→八百長疑惑について白鵬が述べたコメント。「ないです」や「ないと思います」でなく、「ないと言えないじゃないですか」という回答に、非常に深さを感じて面白い。日本人よりも日本人を理解した、日本人らしい言葉だと感じる。

☆総員起こし

→上記自衛隊時代の経験談。この言葉は、自衛隊員を朝起こす為の業界用語で、大声でこの言葉を叫ばれた後、けたたましい音で起こされる。外に出て整列するのだが、隣の市民病院の入院患者も一緒に起きてきて、病院内から皆がこちらを見学していたのが思い出深い。

☆山手

→大阪、兵庫などの関西地区では一般的に、線路を挟んで山側が北、海側が南という東西南北の感覚を持っている人がほとんど。そういう自分は、上京する際進行方向の右手が南だと思っているため、東京駅に着くと八重洲口は南側と思ってしまうが、東京駅は微妙にカーブした位置に設置されているため、実は東側ということにいつも戸惑う。突然コンパスを失い道に迷ったような感覚に陥る、という話。

☆暴走族

→最近ではお金がかかるという理由もあり暴走族が減ってきているらしいが、以前暴走族撲滅のため、名前をダサくしようというアイデアがあったとか。暴走族という響きが、ワルをイメージさせカッコいいと参加するのだから、いっそ“珍走団”に変えてしまっは？という話だったらしい。

☆自然な脱線（造語）

→初回のオモロい言葉シェア活の際に、自然に脱線してまた新たなアイデアが生まれることに、新しい発見と喜びを感じた。普段の状況下では、“自然な脱線”という言葉は存在しえない表現だから面白い。英語にも、真逆の意味が二つ入った語を表す **oxymoron** という言葉があることを知った。以下 <http://trilingue.exblog.jp/6338775/> より引用。

英語の場合はまたいろいろと違う面白い oxymoron があります。例えば American English (アメリカの vs. イギリスの)、big baby (大きな vs. 赤ちゃん -- 赤ちゃんは小さいのに)、jumbo shrimp (大きな vs. 小エビ)、bittersweet (苦い vs. 甘い) などなど。これらの単語は普通の会話中では矛盾した意味としては使われてはいないのですが、言語学的にそれぞれの単語の意味を考えた場合矛盾しているという事なんですね。面白いものでは honest lawyer (正直な vs. 弁護士 -- 正直であっては弁護士は務まらない!)、happily married (happy vs. 結婚している -- 結婚している事と happy である事は矛盾している!?) などがあります。特に最後の2つはブラックジョークが面白い。一時流行った、“マイルドヤンキー”もこれに該当すると思う。

☆Leather and Lace

→Stevie Nicks "Leather and Lace"曲タイトルより。男性をLeather、女性をLaceと例えた比喻表現。ハードな質感とはかなさの対比が絶妙で素晴らしいと感じる。

☆プンスカ子さん

→プンスカという擬態語が好き。怒っている自分自身を表すのに使うのが面白い。人に話す時も、こんなことがあって、私すごく頭にきて...! というよりも、もうホントにプンスカで! という方が話も面白くなる。プンスカ子さんからの、とにかくさんづけも面白い。うっかりさん、しっかりさん、芸達者さん、べっぴんさん、お利口さんなど。